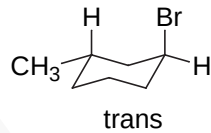
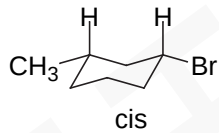
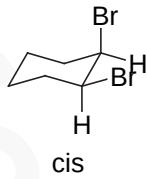
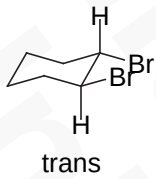


2.41

(a)

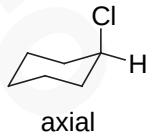
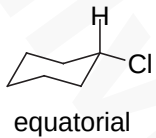


配置異性体



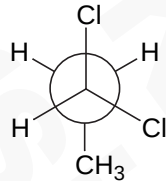
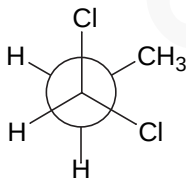
配置異性体

(b)



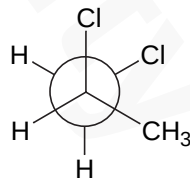
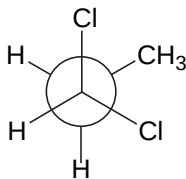
配座異性体

(c)



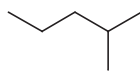
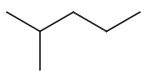
配座異性体

(d)



構造異性体

(e)



異性体でない=同一化合物

まず、構造異性体か立体異性体かを見分けます。この際には炭素に結合している置換基を比較して、同じかどうかを調べます。異なっていたら構造異性体です。同じならば立体異性体の可能性がります。

立体異性体ならば、単結合を回転させて互いに変換できるかを調べます。結合の切断-再結合を行うことなく互いに変換できれば、配座異性体です。互いに変換するために一度結合を切らなければならないのならば、配置異性体です。